

平成28年度 学校関係者評価書

1. 学校評価の年次報告について

- ①学校評価に係わる各種アンケートの情報収集は、年次計画通りすべて実施できた。
- ②情報収集の実施方法と集計処理についても、年度を通して効率よく実施できた。
- ③学校関係者評価委員会は、委員の改選もあり6月に実施した。
- ④学校関係者評価委員会は、6月・11月・3月と年間3回開催した。
- ⑤学校関係者評価委員会の意見は職員会議や運営委員会あるいは科会等において各教職員に復伝し、業務改善に努めた。

2. 学校関係者委員からの意見(3回分総括)

- ①学校関係者評価委員会が年間3回実施されるということで、他校と比較して実施回数は多く、高水高校は積極的に取り組まれていて評価できる。
- ②公立小学校ではコミュニティスクールとして地域と連携した学校作りがなされている。何かやろうとするとお金もかかるが、高水学園も地域社会との連携をはかる施策を模索されてはどうかと思う。これからの学校の在り方は、地域の人々をいかに取り込むか、そして地域社会といかに一体化した学校となっていくかにその存亡はかかっているのではないだろうか。
- ③国語の授業を中心に据えた基礎学力を身につけさせて、自分の考えを他人に伝えることのできるコミュニケーション能力の充実をはかる努力をしてほしい。
- ④高水高校に入学してがんばろうとする生徒を増やすためには、自己目標シートの達成いかにかかっていると思う。この自己目標シートの達成度が次年度の生徒数と関連すると思う。
- ⑤高水学園の生徒の生活態度は、全体としてはよく挨拶もできていて、また普通科と六年制普通科の生徒どうしの仲も良く明るい学校であるという印象を持つことができた。運動会や楽学祭などは、地域の老人会の方々にも来ていただいて自由観覧してもらおうというのも良いかもしれないと思う。
- ⑥高水高校附属中学校の生徒と近隣の小学校の生徒との交流会があっても良いのではないだろうか。
- ⑦運動会や楽学祭などではPTAとの連携が綿密にできており、またPTA活動も円滑な運営が行われていて良い感想をもった。今後ともPTAの方々に協力が得られるよう学校側は努力してほしい。
- ⑧高水学園がユネスコスクールとして岩国では中心的な存在となっていて頼もしく思う。今後ともこの活動に積極的に取り組まれることを期待する。
- ⑨学校生活をまじめに過ごした生徒においては、学力の保障と進路の保障を確実にお願いしたい。進学したい大学や就職したい会社に入れるように進路指導していただきたい。
- ⑩今後、公立小学校と公立中学校の一貫教育が推進されていこうとするなかで高水高校附属中学校の在り方はどうなっていくのか心配である。
- ⑪高水高校附属中学校や六年制普通科の地域が抱くイメージはレベルの高い難関学校であったが、その一方で生徒数の減少に歯止めがかからないのは何故か。そのあたりの原因分析は急務の課題であると思う。